

氏名	黒田 崇之
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 3959 号
学位授与の日付	平成 21 年 6 月 30 日
学位授与の要件	医歯学総合研究科機能再生・再建科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)
学位論文題目	Changes in the Lateral Pillar Classification in Perthes' Disease (ペルテス病におけるLateral Pillar分類の変化)
論文審査委員	教授 木股 敬裕 教授 金澤 右 准教授 西田 圭一郎

学位論文内容の要旨

ペルテス病において予後評価および治療法の決定に lateral pillar 分類 (以下 LP 分類) が広く用いられている。LP 分類は治療経過に伴って grade が変化することがあり、初診時 X 線像を LP 分類で評価しても予後評価と相関しないことがある。我々は、治療法、壊死範囲、発症年齢といった因子が、LP 分類の grade 変化に与える影響について検討した。保存的に治療した 102 例のペルテス病患者について LP 分類の grade 変化の推移を観察した。32 例 (31%) で grade が変化していた。治療法で比較すると、大腿骨近位骨端部 (骨端核) への力学的負荷がかかる治療法では grade が変化する症例が有意に多かった。壊死範囲で比較すると、壊死範囲の広い症例において grade が変化する症例が有意に多かった。発症年齢によって grade が変化する割合に差は認めなかった。ペルテス病に対し保存療法を行う場合、発症年齢に関わらず壊死範囲の広い症例では治療経過中に LP 分類の grade 変化を起こしやすいので注意を要する。そのような症例に対しては骨端核への力学的負荷が少なく grade 変化を起こしにくい治療法の選択が推奨される。

論文審査結果の要旨

ペルテス病に対する治療法と予後を決定する評価として、Lateral Pillar (LP) 分類が一般的に用いられている。しかし、実際にはこの LP 分類は治療中に変化することがあり、予後を決定するまでには至っていない。本研究は、この治療中の LP 分類の変化に及ぼす影響因子を調査することにより、最適な治療法を導き出すのが目的である。ペルテス病症例 110 例に対し、XP による詳細な分析と治療結果、予後を検討した。その結果、30%の症例が治療中に LP 分類が変化していること、そして装具療法などの部分的荷重を加えた方が、免荷療法より壊死範囲が広がることを明らかにした。今後の臨床に役立つ結果を導き出したことになり、価値ある業績と認める。よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。